

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2021/09/13~2021/10/31)

【イギリス・ヨーク(York)について】

ヨークはイングランド北部のノースヨークシャー州に位置する都市で、首都ロンドンから電車で約2時間程にある。長い歴史と共に歴史的建築物を残しつつ、様々な文化の影響を受けて近代化をとげ、現在はイギリス有数の観光都市として国内外から多くの人が訪れている。またフェアトレードタウンにも認定されており、街にもサステナビリティやチャリティを意識したお店や商品を多く目にする。私はこの町で「持続可能な観光」と「人や環境に配慮した消費」について学びたいと考えている。



1. 勉学の状況

【授業形式】

授業は Lecture と Seminar の2コマで1セット(module と呼ぶ)で、基本的に前期・後期それぞれ3module(週に6コマ)ずつ履修する。

Lecture は講義型で、少人数のものから200人近くのものまで様々。基本的に教授の話に集中することになるが、授業資料は全て Moodle にアップしてくれるので、事前・事後で不明な点を確認することが可能である。Seminar はディスカッション等の参加型で、20名弱の少人数で行う。私が履修している授業はリーディング等の事前課題に基づいて議論をしたり、グループでプレゼンを作ることが多い。ちなみにほとんどの授業は対面である。

授業数は少ないものの予習が多く、また評価が主にプレゼンテーションとエッセイのため、授業外学習にも時間を費やしている。ただ先生方や tutor の方のサポートが手厚く、心配な点や質問があれば気軽に相談できるのでありがたい。

【(個人的な)課題】

私は言語でつまづいた。特にディスカッションだ。授業が始まってから、日常会話と議論はスピードも内容も全く違うのだということを痛感している。講義は理解し準備をしても、Seminar で他の学生の議論についていけないことが多かった。現在は状況を打開すべく、片言でも発言するよう意識している。流暢に話せないこと、話を遮ってしまうことに気後れしつつも、案外耳を傾けてくれることがわかったため、この姿勢を地道に続けていきたい。

※反面教師として、特に留学が初めての方にはどの言語でもリスニングとスピーキングをとにかく鍛え慣れておくことをお勧めします。(日常会話だけでなくアカデミックな内容でも)

前期の時間割→

(緑が Lecture で赤/青が Seminar)

私は”Principle of Marketing” “Tourism Insight and Industry” “Practicing Responsible Business Behavior”の3科目を履修している。

1日の授業数は日本に比べて少ない。

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 01 Lecture 1.01 1.02 1.03 1.04 1.05 1.06 1.07 1.08 1.09 1.10 1.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 02 Lecture 2.01 2.02 2.03 2.04 2.05 2.06 2.07 2.08 2.09 2.10 2.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 03 Lecture 3.01 3.02 3.03 3.04 3.05 3.06 3.07 3.08 3.09 3.10 3.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 04 Lecture 4.01 4.02 4.03 4.04 4.05 4.06 4.07 4.08 4.09 4.10 4.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 05 Lecture 5.01 5.02 5.03 5.04 5.05 5.06 5.07 5.08 5.09 5.10 5.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 06 Lecture 6.01 6.02 6.03 6.04 6.05 6.06 6.07 6.08 6.09 6.10 6.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 07 Lecture 7.01 7.02 7.03 7.04 7.05 7.06 7.07 7.08 7.09 7.10 7.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 08 Lecture 8.01 8.02 8.03 8.04 8.05 8.06 8.07 8.08 8.09 8.10 8.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 09 Lecture 9.01 9.02 9.03 9.04 9.05 9.06 9.07 9.08 9.09 9.10 9.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 10 Lecture 10.01 10.02 10.03 10.04 10.05 10.06 10.07 10.08 10.09 10.10 10.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 11 Lecture 11.01 11.02 11.03 11.04 11.05 11.06 11.07 11.08 11.09 11.10 11.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 12 Lecture 12.01 12.02 12.03 12.04 12.05 12.06 12.07 12.08 12.09 12.10 12.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 13 Lecture 13.01 13.02 13.03 13.04 13.05 13.06 13.07 13.08 13.09 13.10 13.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 14 Lecture 14.01 14.02 14.03 14.04 14.05 14.06 14.07 14.08 14.09 14.10 14.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 15 Lecture 15.01 15.02 15.03 15.04 15.05 15.06 15.07 15.08 15.09 15.10 15.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 16 Lecture 16.01 16.02 16.03 16.04 16.05 16.06 16.07 16.08 16.09 16.10 16.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 17 Lecture 17.01 17.02 17.03 17.04 17.05 17.06 17.07 17.08 17.09 17.10 17.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 18 Lecture 18.01 18.02 18.03 18.04 18.05 18.06 18.07 18.08 18.09 18.10 18.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 19 Lecture 19.01 19.02 19.03 19.04 19.05 19.06 19.07 19.08 19.09 19.10 19.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 20 Lecture 20.01 20.02 20.03 20.04 20.05 20.06 20.07 20.08 20.09 20.10 20.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 21 Lecture 21.01 21.02 21.03 21.04 21.05 21.06 21.07 21.08 21.09 21.10 21.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 22 Lecture 22.01 22.02 22.03 22.04 22.05 22.06 22.07 22.08 22.09 22.10 22.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 23 Lecture 23.01 23.02 23.03 23.04 23.05 23.06 23.07 23.08 23.09 23.10 23.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 24 Lecture 24.01 24.02 24.03 24.04 24.05 24.06 24.07 24.08 24.09 24.10 24.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 25 Lecture 25.01 25.02 25.03 25.04 25.05 25.06 25.07 25.08 25.09 25.10 25.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 26 Lecture 26.01 26.02 26.03 26.04 26.05 26.06 26.07 26.08 26.09 26.10 26.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 27 Lecture 27.01 27.02 27.03 27.04 27.05 27.06 27.07 27.08 27.09 27.10 27.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 28 Lecture 28.01 28.02 28.03 28.04 28.05 28.06 28.07 28.08 28.09 28.10 28.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 29 Lecture 29.01 29.02 29.03 29.04 29.05 29.06 29.07 29.08 29.09 29.10 29.11
					PRINCIPLES OF PRACTISING RESPONSIBLE BUSINESS BEHAVIOUR LECTURE A 30 Lecture 30.01 30.02 30.03 30.04 30.05 30.06 30.07 30.08 30.09 30.10 30.11

2. 生活の状況

【寮】

大学から歩いて10分ほどの寮に、自分を含め日本人3人、韓国人2人でキッチンとバス/トイレを共有して住んでいる。アジア出身者で固まるのは珍しく、最初は多国籍な環境の方が好ましいと考えていたが、文化や思考が似ているため悩み等も共有しやすく、日々彼女たちに助けられていることも多い。先日はフラットメイトの誕生日会を行った。ちなみに個人部屋でプライベート空間も確保されているため、勉強等に集中したいときは部屋、誰かと話したいときはキッチン、というようにメリハリがつけられる環境だと思う。

また大学そのものが町の中心街に程近く、スーパー等生活用品を買える場所も徒歩圏内にあるため、通学面・生活面共に便利である(ヨークは治安も比較的良い)。

左：寮の部屋(到着時: St Mary's) 寝具等は備え付け。

入居時には基本的なキッチングッズ等も配布してもらった。

右：普段使っている大学の裏口キャンパスはコンパクトだが、施設は新しく緑も多いので過ごしやすい。



【課外活動】

York St John University には文化系・運動系・音楽系ともに様々な Society(日本で言うサークル活動)が存在する。私はあまり時間が割けていないが、Environmental Society と Japanese Cinema Club に時々参加している。留学生も現地学生と共に参加できるため、交友を広げる場になりそうだ。

また Society 以外にも留学生向けの交流会や英会話のサロン等が定期的にある。知り合った方が夕食時に招待してくださることもあり、積極的に参加することでコミュニティを広げたり、文化理解を深めたりする良い機会になる。

3. その他

【Quarantine(隔離)】

私が渡航した際はまだイギリス政府が日本からの入国者に対して Quarantine を求めているため、私も10日間大学の寮で隔離生活を送った。外出は基本的に禁止(PCRの提出はOK)。食事も生活用品もデリバリーや宅配スーパー、Amazon等で何でも手に入るのでもそれほど不自由は無かったが、一緒に不満や悩みを共有できたフラットメイトの存在はありがたかった。

ただ普段の感染症対策に関しては日本とのギャップをかなり感じる。現在感染者が再増加しているのでも引き続き個人の対策は徹底したい。



Day2と Day8のPCRキット
私は日本にいる間にキット(Travelers Pack)を予約し、自分で検査をして提出した。

【街の様子】

中世の建築物が多く残るヨークの街は観光地ということもあり整備されていて、初めてヨーロッパに来た私には未だに新鮮で感動することばかりだ。

平日・休日問わず多くの人を訪れるため常ににぎやかな印象で、観光を学ぶには最適な場所だと思う。

ただまだあまり散策できていないので、時間を見つけて探検したい。



左: The Shambles 右: York Minster(世界遺産)
ヨーク市の学生は York Minster に無料で入場できる。

最初の月を終えて

渡航後最初の1ヶ月半は、多くの発見と反省を感じた期間となった。

10月は生活に慣れることを目標としていたが、学業・就活・日本の活動・現地活動の両立を図る中で、留学しているのに現地の活動に100%を注いでいないもどかしさや、1ヶ月半が経つのにまだ言語等に壁を感じる自分に焦りを感じていた。一方で自分の行動を振り返ると、言語やコミュニケーションにおいても、現地活動においても、「まだうまく話せないから」「今は時間がないから」と、何かと理由をつけて挑戦すること自体に消極的になり、自ら壁をつくり、益々機会を逃していたように感じる。

留学は日本にいた時以上に、機会をつくるのも逃すのも自分次第だと感じる。自分にとっての本当の優先順位は何か、ここに来た目的は何かを常に考えながら、与えられているこの環境を十分に活用し楽しんで、これからの8ヶ月間を充実させていきたい。そのために、まずは「できない理由」を探しがちだった自身の行動と姿勢を変えていこうと思う。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2021/11/01 ～2022/02/28)

1. 勉学の状況

【Semester1 (～1月)】

11月以降の授業は中間・期末の Assessment に向けた内容が多く、私が履修していた Marketing/ Tourism/ Responsible Business の授業では、グループプレゼンテーションとライティング(レポート/エッセイ)が評価対象だった。

プレゼンテーションでは新製品の提案(Marketing)や特定の地域・施設の分析(Tourism)を他の学生と共に行った。所属学部でもプレゼンの機会が多かったため発表には慣れておりつもりだったが、現地の学生や他の留学生と意思疎通を図りながら1つの発表を作るのは予想以上に苦労した。しかしその過程ではメンバーとコミュニケーションを取りながら現地の学生の価値観や文化に触れる良い機会となった。

またライティングでは事例の分析を行うことが多かったが、アカデミックライティング・専門分野双方で前提知識や語彙力が不足していたため苦労した。またレファレンスに対する評価が非常に厳しく、自分の主張に対する根拠や、客観的に見た説得力の重要性(そして今まで自分が書いていたレポートがいかにか適切だったか…)を改めて学んだ。大量のリーディングに慣れておらず人一倍時間はかかったと思うが、学術的な英語になじむ良い機会になった。

【Semester2 (2月～)】

2月からは Semester2 が始まった。今学期は以下の授業を履修している。

- ・ Nature Conservation
- ・ Sustainability - Global Environmental Challenges
- ・ Creating Business Ideas & Opportunities

前期は主に経済面から観光や消費について勉強していたが、後期はより環境面に焦点を当て、主に Geography 分野から選択した。前期と同様に講義とディスカッションの形式で、より専門的な分野になり語彙力や事前知識の不足で再度苦労はあるものの、Set Reading(予習用の文献)等や配布スライドから不明な部分を補い、周囲についていくようにしている。

また、周囲にも救われている。後期も授業の先生方が大変親切で、Tutorial を設けて不明な点について個別に解説してくださったり、クラスメイトも慣れない機器操作等で困っていると気を遣ってサポートしてくれたりする。個人の努力はもちろん大切だが、できないことに引け目を感じるだけでなく、時には周囲の助けを借りることも大切だと感じた。

2. 生活の状況

【気候等】

イギリスの天気は現地でも会話のジョークになるほどで、良いとは言えないが、来る前に聞いていたほど悪くもない。雨が一週間続くときもあれば、太陽が連日見えるときもある。また今年のヨークの冬は温暖で、雪はほとんど降らず、千葉で過ごすくらいの装備で問題なかった。

ただ冬の日照時間は短く、8時過ぎに日が昇り、4時過ぎには日が沈むので、晴れの日の昼間は貴重だった。夏は対照的にとても日が長いらしい。

【食】

イギリスの外食はかなり高いため、できるだけ自炊している。イギリスには大手のスーパーがいくつかあり、日本と同じくらいか安価に調達できる食材も多い。品ぞろえも豊富で、特に芋類や小麦類、乳製品等は地域性が種類が多い。また街にはアジア系スーパー等もあり、米や醤油等の調味料も若干高価だが手に入るの、個人的に食で困ったことは無い。



奥まで全て乳製品コーナー

【課外活動】

○Visit York

現地の人との交流から観光事業・住民・観光客の関わりを学びたいと思い、11月から Visit York という観光地域づくり法人でボランティアを始めた。最初に連絡を取ったのがコロナ禍前の2020年冬だったので、約1年半以上越しの実現となった。

主な内容は観光案内所での質問対応だが、地域の知識はもちろん、語彙力も未熟だったため、当初はうまく対応できず、周りのスタッフさんや訪れた方にもご迷惑をおかけしてしまった。そのような私に対しても皆さんは親切に対応してくださり、とても恵まれた環境だと感じる。またここでの出会いをきっかけに別の地域の観光事業にも関わるなど、新しいご縁もあった。

周りから学び、街を歩き回り、またヨーク出身の友人にも地域について教えてもらい、最近では積極的に対応できるようになってきた。感染再拡大でクリスマス明け～1月末まで一度活動は休止したが、2月から再開し街にも活気が戻ってきた。対話を通して彼らの価値観や(観光やボランティアへの)目的意識など、実践活動ならではの発見が多くあり、貴重な時間になっている。



活動先の Visitor Information Center

○York Fair Trade Forum

またヨークがフェアトレード・タウンに登録されていることから現地の取り組みを学びたいと思い、York Fair Trade Forum というフェアトレードの普及・啓発を行う NPO の活動にも参加している。現在はミーティングやイベント参加が中心である。

活動・生活を通して、日本との違いを感じる点、一方で共通の課題とを感じる点も多くある。例えば、イギリスでもエシカル消費(フェアトレードやヴィーガン等)に関する意識は本当に人それぞれで、啓発団体が抱えている問題も日本と似ている(無関心層との接点づくり等)。

一方で日常の選択肢の幅が豊富で、街を歩けばフェアトレードやチャリティの店が多くあり、レストランやスーパーでもヴィーガンメニュー等が当たり前存在する。このように選択のハードルが低い点は、日本との大きな違いの1つだと思う。

Visit York での活動も同様だが、現地で生活し、地域の人と関わる中で初めて気づくこと、感じることはとても多い。実際に現地での体験から学ぶ貴重さを改めて感じている。



2-3 月には“Fairtrade Fortnight”というキャンペーンが各地で開催された

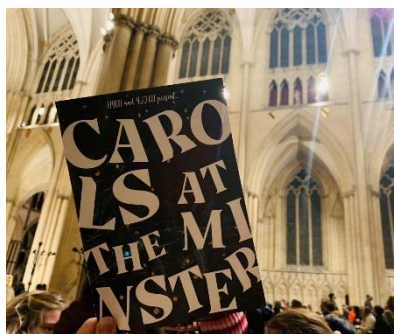
【クリスマス休暇】

ヨークセントジョン大学では 12 月中頃から 1 月中頃までクリスマス休暇があった。この時期には街中がクリスマス一色となり、各地でクリスマスマーケットやクリスマス・キャロルのイベントが開催される。私もこの期に友人と各地を巡ってみたが、それぞれの特徴がありつつ、どの街もワクワクした、温かい雰囲気が素敵だった。

クリスマス当日には現地の知人が自宅のクリスマス・ディナーに招待して下さった。イギリスのクリスマスは家族との時間を大切にする日とのことだったが、“You're our new family, always very welcome!”と言ってくださり、とても温かい気持ちになったクリスマスだった。



ヨークのクリスマスマーケット
連日大賑わい



ヨークミンスターでの
クリスマス・キャロルサービス



知人宅のクリスマスツリー
下にはプレゼント

3. 折り返しを迎えて

早いもので留学生活も残り 4 カ月弱となった。現地の生活に慣れてきたことで、ただ日々
新しさを感じるだけでなく、自分自身や周囲の環境をより広い視点で考えられるようになった。
また自分の内向き姿勢を変えていったことで、地域の方とも関わる機会が増え、現地を訪れたか
らこそその学びを得られるようになってきた。

2022 年 3 月現在、イギリス国内はコロナと共生するような体制で、油断はできないがほぼ規
制も無い状態に戻っている。一方で昨今は国内外の情勢が別の要因からも大きく変化しており、
今こうして毎日を過ごせることは決して「当たり前」ではないのだと改めて思う。

自分の環境や様々な縁に改めて感謝し、残りの期間も 1 日 1 日を大切に過ごしていきたい。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022/03/01 ～2022/06/30)

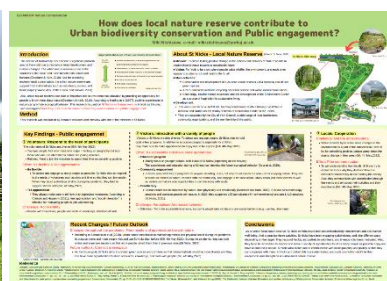
1. 勉学の状況

Semester2 の授業では最終発表等に向け、ディスカッション等と併せて外部での調査やワークを多く行った。

○Nature Conservation

生物多様性や環境保全を学ぶこの授業では、自然保護区(Askham Bog)や動物園(Yorkshire Wildlife Park)でフィールドワークを行った。イギリスは自然保護区が多いと以前から感じていたが実際に訪れて話を聞くのは初めてで、良い機会になった。また最終発表では自分で選んだ保護区にアポイントメントをとってインタビューを行い、その調査結果をまとめてポスター発表を行った。私は「環境保全と市民参加」をテーマにヨークの自然保護区である St Nicholas Nature Reserve の方にご協力いただいた。

この授業は 1 年生の科目のため内容自体は基礎的だったが、より学生の実践活動が重視されており、知識に加えフィールドでのスキルや経験を得られる環境が貴重だった。屋外学習が好きな人には Geography の授業はおすすめ。



St Nicholas Nature Reserve
街中心部近くにあり、市民の憩いの場になっています

作成したポスター

○Sustainability - Global Environmental Challenges

“Sustainability”を軸に、概念的な部分から食料、ごみ、水、エネルギー等の問題について幅広く取り上げた。以前から関心のあるテーマではあったが授業で深く扱うのは初めてで、海外（主にイギリス）の事例やそれに対する学生や教授の考え等を実際に聞くことができ、興味深かった。

また3月中頃には”Decolonising the University Day”という、Geography 専攻の1・2年生が合同で行う1日がかりのワークショップがあり、学年混合のグループで調査・発表を行った。どのグループも2年生が主にグループを引っ張りつつ、1年生も積極的にアウトプットしていく様子が新鮮で、双方に良い学びがあったのではないかと思います。

○Creating Business Ideas & Opportunities

先2つとは異なる Business school の授業で、“Innovation” と “Creativity” をキーワードに「ビジネスのつくり方」を学び、最終的には各々で新しい商品/サービスを提案した。将来的に起業したいという学生が多く、そういった背景もあってか特に議論が活発な印象だった。私も最終発表では個人のアイデアをプレゼンした。今までこの分野を学んでいなかった分反省点は多かったが、建設的なフィードバックを得られて大変勉強になった。

2. 生活の状況

【気候】

3月からは晴れて温かい日が続き、街の至る所で花が咲き、春の訪れが感じられた。日照時間も私が帰国した6月末頃には夜10時以降になっても明るいほどに長くなり、気温も20度前後で比較的過ごしやすい気候だった。



春の象徴として親しまれる Daffodil(水仙)
城壁の周りが黄色でいっぱいになります



初夏からシーズンとなるイギリスのベリー
5月には苺パーティがありました

【課外活動】

○Visit York

ヨーロッパ中で観光が再開し始めたイースターの頃からヨークの街は一層賑わい、ボランティアをしていた Visitor Information Centore には外国人観光客の方も多く訪れるようになった。特に今年はエリザベス女王の即位70年を祝う Platinum Jubilee だったため、5月頃からヨークを含めイギリス全土が祝賀ムードになった。その頃には業務に慣れてきたので、訪れた方へ世間話を兼ねて訪問目的や訪問先の選択要因等を聞いてみたり、他のボランティアやスタッフの皆さんとじ



毎日にぎわっていた街の広場

っくり話をしたり…ということもできた。訪問者には地元住民やリピーターが多い、Visit Yorkのスタッフも実はヨーク出身ではない人が多い…等、毎回新しい発見があった。

正直なところボランティアは最後まで周りに助けてもらっていたし、対応も拙かったかもしれない。しかし活動を通してヨークが観光地としても居住地としても選ばれる理由や Visit Yorkとしての取り組みを学ぶことができ、大変学びの多い貴重な経験となった。

○York Fairtrade Forum

団体として地域のマーケットイベントに出店し、フェアトレード商品を販売した。当日、最初の1時間は関心を示してくれる人がほとんどいなかったが、その後子供向けのゲーム(ゲームで得点すると、フェアトレードのシールやお菓子がもらえる)をきっかけに家族連れが興味を持ってくれるようになり、その人ばかりからその後は多くの人がストールに立ち寄ってくれた。しかしフェアトレードそのものに関心を持ってくれる人は少なく、日本でフェアトレードの活動をしていた際にも似たような経験があり、他のメンバーとも話しながら共通の課題について考えさせられた。



5月末の Visitor Information Centre
Viking Festival と Jubilee の装飾で賑やか



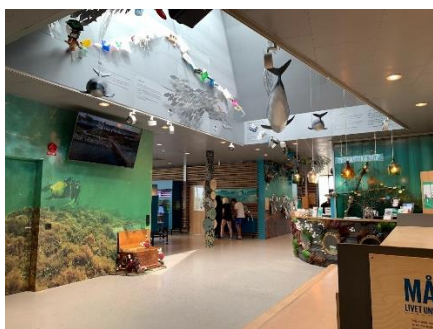
York Fairtrade Forum で出店したストール

【フィールドワーク】

授業終了後、帰国までの期間に1週間ほど北欧の国々でフィールドワークを行った。訪れたのはフィンランド・スウェーデン・デンマークで、それぞれサステナブルツーリズムの取り組みやSDGs/環境に配慮した施設/地域等を見学・体験して回った。授業やメディアで目にしたことはあってもやはり実際に自分の目で見て聞いたのとでは得られるものが全く違い、良い刺激ばかりの大変有意義な時間になった。



ヌークシオ国立公園(フィンランド・エスボー)



親子連れが多く訪れていた
海洋教育センター(スウェーデン・マルメ)



内部はごみ焼却場だが施設の表層部をスキー等のレジャー施設として活用するコペンヒル(デンマーク・コペンハーゲン)



【その他】

前期からボランティアをしていた日本語クラスの履修生たちと仲良くなり、週末や誕生日には集まってよくパーティをした。日本人学生で日本の食(親子丼、焼きそば、おにぎり等)を作ってふるまうこともあった。彼らが日本に関心を持ったきっかけは様々だったが、日本が好きで熱心に日本語を勉強してくれているのが個人的にとっても嬉しかった。夜暗くなるとみんなで寮まで送ってくれたり、帰国の日には一緒に荷物を運んでくれるなど本当に親切な学生ばかりで、卒業後は英語教師として日本で働きたい、在学中に日本に留学に行きたい、という学生も多くいたため、みんなが日本に来た際にはぜひおもてなししたい。

最終月はフラットメイトをはじめ多くの友人たちとのお別れの月でもあった。ヨークでの9か月間がこれほど充実したものになったのは本当に彼らのおかげだと思う。みんなに会うためにぜひまたヨークや世界中を訪れたい。



日本語を学ぶ学生たちと



フラットで夜な夜な集まり、ゲームをしたり語ったり